

歴史まち歩き

30

百曲街道

【市バス「中島橋」中川車庫前・権野方面停留所(南側)】▶市バス「東起橋」

熱田新田の面影をたどって 三十三観音が見守る海辺のワインディング・ロード

熱田新田の干拓が行われたあと自然にできた、くねくね曲がった道、百曲街道。干拓工事の無事を祈ってつくられた観音堂や、境内いっばいに広がる見事な黒松で知られる道龍山空雲寺などを見学します。

1 空雲寺

創建は寛文元年(1661年)で、新田開発の功労者であった鬼頭景義の開基と伝わります。春日井郡大溜村の善源寺が廃寺となったのを譲り受け、空雲寺を建立しました。現在は、曹洞宗、道龍山と号し、聖観音像、宗祖道元禅師像等の寺宝が保存されています。鬼頭景義は、源為朝の子孫といわれ、土木工事の技術に優れた才能をもち、寛永8年(1631年)から明暦3年(1657年)までの27年間、新田開拓に東奔西走した人物で、境内には延宝4年(1676年)建立の景義の墓碑があります。また、市内最大級の黒松は必見です。

2 25番割観音堂 3 26・27・28番割観音堂

正保4年(1647年)、藩営で始められた熱田新田の干拓は、慶安2年(1649年)に完了し、慶安4年(1651年)縄いれ(検地)が行われました。25番割観音は地域有志の皆様方で一部建て替えられている。土地を一番割から三十三番割までに区画し、区画された各番割に観音堂を配置し、その土地の守護仏としたのがこの番割観音です。現在でも、毎月第三日曜日になると、善男善女の一行が、観音講のけさをかけて巡礼する姿を見ることができます。

4 小碓神明社

村の氏神として、寛文9年(1669年)に勧請しました。祭神は天照大神です。寛政年間に作られた当保存会の神楽は、26・27・28番割観音堂に保存されています。

5 24番割観音堂

なぜか25・26番割観音よりも西にあります。観音堂の右手には、小碓神楽の保存庫があります。

6 百曲街道

江戸時代初期の熱田新田開拓にともない、新田の北側に自然に出来た街道で、曲がりくねっていたためにこの名前と呼ばれるようになりました。江戸時代末期から明治にかけては、北の端を本町通に、南の端を東海道につないで、名古屋の城下町と西南部をつなぐ産業道路の役割を果たしました。

7 29・30・31・32・33番割観音堂

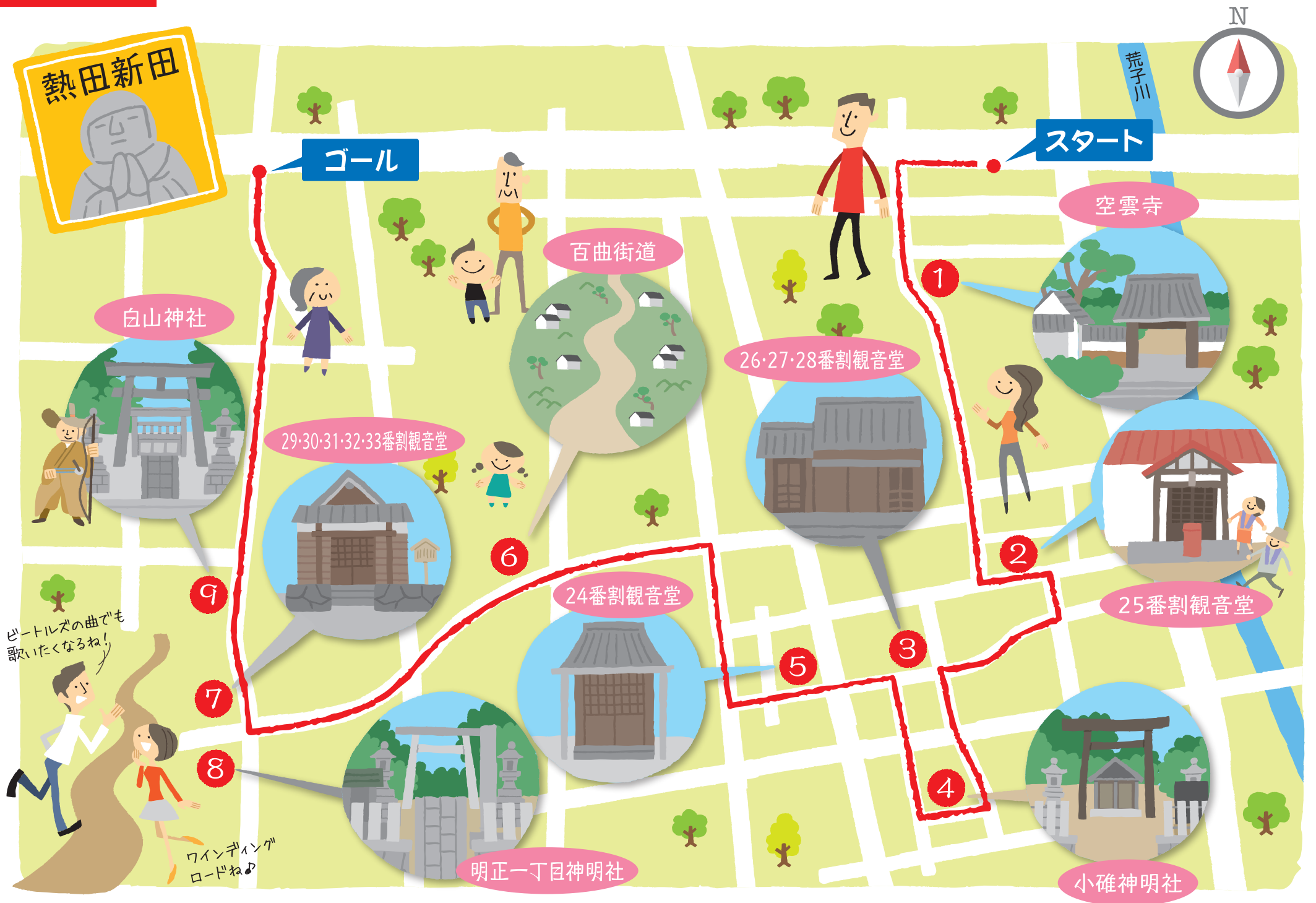
お堂の中には5体の石仏が祀られています。この辺りは曲がりくねった道が続き、百曲街道の面影を感じることができます。

8 明正一丁目神社

村の氏神として安永8年(1779年)に勧請しました。祭神は天照大神です。名古屋市指定保存樹のアキニレ・クロガネモチがあり、アキニレの木は伊勢湾台風の影響で幹が傾斜しています。

9 白山神社

社造営は古く、寛永16年(1640年)と伝えられます。当地ゆかりの前田侯が加賀国白山大権現を守護神としたことから、この地にも白山神社が祭られ、村の鎮守として崇められてきました。前田氏の東起城跡ともいわれています。初代尾張藩主・義直が、鷹狩りをしたときに当社で休息した場所としても知られています。大きなクスノキは樹齢90年を超えています。



【注意事項】この地図は「歴史まち歩き」の資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴でご参加ください。車などに十分注意し、各自で責任をもって行動してください。住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。●お問い合わせ：(公財)名古屋観光コンベンションビューロー TEL 052-202-1143(この情報は平成26年11月現在のものです。)